



市民ネットワーク 議会速報

2013年
千葉市議会第3回定例会
9月6日～10月3日

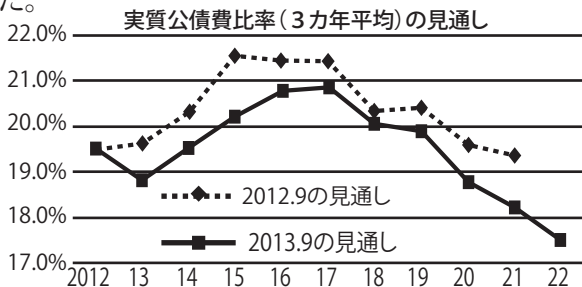


市議会議員
湯浅美和子 山田京子

厳しいやりくりが続くが、少しずつ好転の兆し…2012年度決算を認定

熊谷市長1期目の実績を捉え、2期目の展望を推し量る重要な節目の決算審査でした。この4年間はムダを削ることに重きを置いたように感じましたが、2012年度は真に必要な分野に重点配分がなされていることを評価し、今後の健全な市政運営への展望が見えつつあることから、決算に賛成しました。

一般会計は生活保護費などが増加する一方、市税や地方交付税の減少で、市債管理基金へ予定していた20億円の返済を減らし、退職手当債の発行でかろうじて12億円の黒字という厳しいやりくりでした。



相変わらず財政健全化判断比率は政令市ワーストですが、①実質公債費比率は19.5%、②将来負担比率は261.1%で、わずかですが好転。グラフで分かるように、今後の見通しも1年前と比べピークの山が少し低くなった事を評価するものですが、政令市平均①11%、②126%と比べると、まだ道半ばであることは認識しなくてはなりません。

借金の総額である市債残高と債務負担行為の全会計残高合計は市民1人当たり128万円と多いのですが、5年前の144万円と比べ減ってきていることは財政状況が少しずつ好転している兆しとして評価したいと思います。

「障がいがあっても一緒に幼稚園に行きたい！」

代表質疑から
山田京子

あんしんケアセンター倍増の評価と課題

これまで12か所だったあんしんケアセンター(地域包括支援センター)が、昨年10月、24か所へと倍増しました。市民ネットワークでは、その効果をきちんと評価したいと、全センターへの聞き取り調査を実施し、そこで見えた問題を代表質疑で取り上げました。

市としても区保健福祉関連部門とあんしんケアセンターとの連携のあり方などの課題を認識しており、センターが、地域ケア会議等を通じて行政や地域の関係者と情報を共有するとともに、成年後見支援センターや認知症疾患医療センターなどとの連携を進めています。保健福祉センターとあんしんケアセンターが緊密に連携して困難事例に対応できるよう、合同事例検討会を開催し、また職員のスキルアップを図るため、成年後見制度の研修会などを行っているとのこと。

高齢化がすすみ、センター業務がさらに増えることは想像に難くなく、国でもセンター職員の業務量に応じた適切配置やセンター間の役割分担、また従来とは別の枠組みによる人員体制の強化なども検討の俎上に載せているとのこと。市に対し、センターに対応する区職員の資質向上とともに、直営センターの設置検討を行うことを求めました。

障がいのある子の保護者の方から、誰でも地域の幼稚園に入れるようにしてほしいという要望がありました。

千葉市では認可保育園と保育所に障がいのある子も入れますが、幼稚園では断られたり、遠くの園まで通ったり、きょうだいで同じ園に入れないケースがあります。

現在、障がい者手帳のある子が在籍すると幼稚園は県と市からの補助を申請できますが、園の数は増えていません。

幼稚園側は補助金の増額を、先生たちは個別に相談できるような専門家の巡回指導を求めています。この点を市に強く要望しました。

幼児期こそ、地域の人たちに包まれながら育っていくことが、周囲の子どもや大人のためにもまた、将来本人が地域生活を営む上でも大事なことではないでしょうか。

どんな子どもでも無条件で保育所や幼稚園に入れるようなそんな社会に変わってほしいと思っています。



残念!議会への上程ならず ～「原発事故子ども・被災者支援法」に基づく 具体策の早期実現を求める意見書～

昨年6月、国会で全会一致で採択された法の具体化を求めるものなのに、千葉市議会では自民、公明、未来創造が反対。他の多くの地方議会では採択が進んでいるのだが。

意見書提出には議会の12分の1(5人)が必要。ネット独自ではできず、みんなの党・無所属議員と共同での提出となった。意見書の共同提出は千葉市では初めてのこと。

意見書案全文http://shimin-network.jp/seisaku/yobosho/2013/2013_9_ikensho.pdf